


# 4章 災害時に障害のある方と出会ったら

## 1. 視覚障害のある方をサポートするとき

### 視覚に障害があるということ

大規模な地震の後には、町の様相が普段と変わってしまいます。そのため、視覚に障害のある方は、普段は問題なく生活している場所でも自分で行動することが難しくなり、また、危険を回避することが困難となるため、周りの人の協力がとても大切です。

視覚に障害のある方を見かけたら、声をかけ、周囲の状況を伝え、避難所への誘導をお願いします。

 ポイントは「わかりやすい説明」です

### 揺れがおさまったら

#### ◇ 周囲の状況を説明

視覚に障害のある方は、周囲の状況がわからず不安になります。不安をやわらげるために、状況をおおまかに説明し、避難が必要な時には誘導します。

### 誘導のしかた

#### 1. 希望の介助方法を聞く

いきなり身体にさわるのではなく、本人の希望を聞きます。  
腕をつかむ、肩につかまるなど、人によって違いがあります。  
介助する人は、杖を持っていない側に立ちます。

例)



次のことはしてはいけません。

- 手を引っ張る
- 背中を押す
- 後ろから抱きかかえる

これらは、視覚に障害のある人の行動を制限してしまいます。

#### 2. 歩くときは・・・①介助者は半歩前を ②二人分の幅をとって



### 3. 状況を説明しながら

視覚に障害のある方は周囲の状況を十分に把握できないので移動中も不安です。ですから周囲の状況を説明しながら歩くことが重要です。

切れた電線、倒れたブロック塀の位置や状況、避け方などはより具体的に。

例) × 「あっちに行きましょう」「そこは危険です」

○ 手をとって具体的な方向を示す。

○ 「右に」「何メートルくらい」「何歩」など具体的な言葉で。



ポイント

### 4 段差・階段では・・・

①いったん止まります。

②「下りの階段です」「上りの階段です」と声をかけます。

必ず、「下り」か「上り」かをいいます。

### 5 “止まるとき”、“歩き始めるとき”は、一声かけて

「さあ、行きましょうか」や「止まりましょう」など声かけを忘れないように。特に、黙って止まらないようにしましょう。

- 盲導犬を伴っている人に対しては、直接盲導犬を引いたりさわったりせずに、方向を説明しましょう。



## 2. 聴覚障害のある方をサポートするとき

### 聴覚に障害があるということ

聴覚に障害があるということは、音による情報のやりとりが難しいということです。災害時は情報の多くが「音声」によって伝達されるため、聴覚に障害のある方は、必要な情報の入手が困難になります。

情報を伝達する方法には、手話だけではなく、身振り・筆談・その他いろいろな方法があります。複数の方法を用いたコミュニケーションをとってみましょう。

● ポイントは「情報の伝達」です

### 揺れを感じたら

#### ◇ 安全確保

メモや身振り手振りなどで身を守るよう指示します。

